


2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立槻田小学校】

1 実践テーマ	Ⅲ ・ Ⅴ
2 実施対象者 (学年・人数)	槻田小学校 全学年 561名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (学活(1・2年生) 総合的な学習の時間(3～6年生))</p> <p>② 行事名 ()</p> <p>③ その他(福祉体験学習(4年生))</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	パラリンピックの陸上競技に取り組むアスリート等の生き方から、夢をもつことやあきらめないこと、勇気をもつことの大切さを実感するとともに、障害をもつ人たちへの理解を深めることができた。
5 取組内容	<p>1. 障害をもつ人への理解を深めるために、4年生を中心に福祉体験活動sを行い、以下のことを学習した。</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;">  <p>福祉体験に取り組む子どもたちの様子</p> </div> <div style="flex: 2;"> <ul style="list-style-type: none"> ①目隠し体験 →目が不自由な人とその介助の仕方 ②高齢者体験 →高齢が感じる不自由さの実感とその介助の仕方 ③車椅子体験 →足が不自由な人とその介助の仕方 </div> </div> <p>2. 4年生を中心に、「第16回北九州チャンピオンズカップ国際車椅子バスケットボール大会」を観戦して、以下のことを学習することができた。</p>



車椅子バスケットボール大会を
観戦する子どもたちの様子

- ① 「第16回北九州チャンピオンズカップ国際車椅子バスケットボール大会」において、交流する日本チームを応援することで、障害に負けず、試合に挑戦する選手のすごさ、態度を学ぶことができた。

3. 4年生を中心に、「第16回北九州チャンピオンズカップ国際車椅子バスケットボール大会」に出場した日本代表選手たちと交流し、以下のことを学ぶことができた。



選手がプレーする姿を見る
子どもたちの様子

- ①選手を出迎え、歓迎する心を育てた。

- ②目の前で選手のプレーを見ることで、車椅子バスケットボールの楽しさや困難さを実感する。



選手と交流する子どもたちの様子

- ③小グループに分かれて、選手へのインタビューを行い、障害をもっている、夢をもつこと、努力することの大切さを学ぶことができた。

6. 中西選手を迎える事前の学習として、オリンピック・パラリンピックの歴史を学ぶDVDと講師である中西麻耶選手の出演したテレビ番組を全校で視聴し、パラリンピックや中西選手への興味関心を高めることができた。また、5・6年生は交流会に向けて、事前に質問や応援メッセージを作成した。

5. 世界パラ陸上選手権大会「優勝」、東京2020パラリンピック陸上競技代表 中西麻耶選手の講話を聞く。講話の中で、以下のことを聞くことができた。



高校時代について話す様子



足を切断したことについて話す様子



世界パラ陸上とパラリンピックへの
思いを話す様子

① 中学校時代取り組んできたテニスでの話を通して、夢と勇気をもって行動すること、そして、努力することなど、自身の体験を踏まえた内容。特に明豊高校に入学する際に自分で高校に電話をして、入学の意思を伝えたことなどが子どもたちの心に響いていた。

また、足を失ったときの状況とその気持ち、足を切ったときの決断、足を切ったからの日々の思い。

② 足を切断してから、テニスではなく、陸上競技に挑戦した経緯、国内での陸上の練習での挫折から海外での遠征、トレーニングについて。

③ 北京でのパラリンピック出場から世界パラ陸上選手権大会での金メダル獲得、東京2020パラリンピック出場に向けての思いについて。

6. 5・6年生が中西選手との交流会で以下のことを質問したり、見学したりして、交流を深めることができた。



質問をする児童の様子

① 普段の生活や大会に向かうときの思い、小学生時代の夢など子どもたちの将来につながる内容などを質問した。



中西選手が実際に走る様子

② 競技用の義足の着脱と実際に走る姿を見て、そのすごさを実感することができた。

<p>6 主な成果</p>	<p>子どもたちにパラリンピックへの理解を深めるとともに、障害があっても、夢をもち、努力することの大切さを学ぶことができた。自分の進路や人生を切り拓いていくためには、勇気をもつこと、自分から積極的に行動することの大切さを学ぶことができた。</p> <p>また、障害のある人もない人も同じように生活するために、思いやりの心が大切であることを実感することができた。障害をもつ人も障害がない人と同じように、日常生活を送りたいという思いをもち、それが実現したときの喜びは障害がない人よりも大きいということを実感することができた。普段の生活でも友達や周りの人に対して思いやりの心をもち、勇気をもって行動するなどの態度が日常でも見られるようになった。</p>
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<p>事前に4年生を中心に、福祉体験や「第16回北九州チャンピオンズカップ国際車椅子バスケットボール大会」観戦、日本代表チームの選手との交流を通して、体が不自由な人や障害をもつ人たちへの理解を深めることができた。そして、中西選手を迎えるにあたり、歓迎の掲示物を2種類用意し、中西選手を全校で迎える体制を整えた。また、事前に中西選手が出演した番組を全校で視聴することで、講師への理解を深める活動を行った。地域に住む高齢者や北九州市出身の車椅子バスケットボール日本代表選手、九州に住んでいるパラリストと交流することで、自分の住んでいる地域へのシビックプライドを高めるように説明を行った。</p> <div data-bbox="518 1064 1316 1332" style="text-align: center;"> </div> <div data-bbox="518 1332 1316 1400" style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>中西選手を迎えるために作成した2種類の掲示物</p> </div>
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・交流会を体育館で行ったため、5・6年生のみの参加となってしまった。運動場で行えば、全学年で参加でき、中西選手が走ったり、走り幅跳びをしたりする様子を見ることができた。 ・番組の視聴や準備など時間の確保が難しかった。
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>本実践を通して、子ども達にパラリンピックに対する理解と関心を深めることができた。</p> <p>理解と心の深まりを生かし、来年度以降は4月から、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた取組を行っていく。</p> <p>取組の中で、本実践を取り入れ、講話の内容や交流会の内容をもとに、高学年を中心にパラリンピックについての新聞などを作成していく。また、来年度も東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて、講師を招聘し、オリンピックやパラリンピックの体験を聞き、さらに関心を高めるようにしていきたい。そして、他の学校と一緒に東京2020オリンピック・パラリンピックを盛り上げていくことに生かしたい。</p>